

**指導事例2 社会 多面的・多角的な見方を育てる 第2学年地理的分野「世界の様々な地域」**

**【単元の構成について】**  
 「つかむ」「調べる・追究する」「解決する・深化する」「まとめる」の各過程に言語活動を位置付けた。  
 まず、「つかむ」及び「調べる・追究する」段階では、「要素Ⅰ」の言語活動を位置付け、「解決する・深化する」で行う「要素Ⅱ」の際の考えの根拠となる情報収集を行う。  
 次に、「解決する・進化する」段階では、「要素Ⅱ」の言語活動を位置付けた。ここでは、各自が考えの根拠をもってグループ同士の意見交換を行う。  
 最後に「まとめる」段階では、「要素Ⅲ」を位置付けた。ここでは、「要素Ⅱ」を通して得た新たな情報等を取り入れ、南アメリカ州の地域的特色を白地図にまとめることを通して、思考のまとめをさせる。

**1 単元の目標**  
 南アメリカ州内の特色ある地理的事象を基に森林破壊と環境保全という学習課題について、多面的・多角的に追究・考察し、その追究の課程を通して南アメリカ州の地域的特色を理解するとともに、捉えた特色を適切にまとめ、表現する。

**2 単元の評価規準**

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
森林破壊と環境保全という学習課題を基に南アメリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	南アメリカ州の地域的特色を森林破壊と環境保全という学習課題を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	南アメリカ州の地域的特色に関する資料から有用な情報を適切に選択して読み取ったり図表などにまとめたりしている。	南アメリカ州について森林破壊と環境保全という学習課題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

※ 言語活動の評価の観点は、「思考・判断・表現」を中心とする。

**3 単元の指導計画（全6時間）**

次	時	学習活動	言語に関する指導上の留意点	評価の観点
第1次	第1時	○学習課題の把握 ・南アメリカ州のあらましをつかむ。	・南アメリカ州の農業や工業の発展についての資料の読み取りから、開発が広がることよきと問題点を国民の生活から理解させ、課題意識を高めさせる。 ・既習事項を基に、地図や統計資料を活用して学習課題について仮説を立てさせる。	社会的な事象への関心・意欲・態度 資料活用の技能
	第2時	・南アメリカ州の発展に着目する。 ・学習課題を設定し、仮説を立てる。 学習課題「南アメリカ州は、どのように発展してきたのだろうか」		社会的な思考・判断・表現 資料活用の技能
第2次	第3時	○学習課題の追究 ・資料を収集し、仮説を検討する。 ・少人数グループで話し合う。	・地域的特色について、個々の条件を関連付け、その特色を考察させる。 ・資料から読み取った個々の情報を関係付けた上で、推論した内容をワークシートにまとめさせる。 ・推論した内容の根拠となる情報から結論に至る追究の過程を論理的に説明させる。	社会的な事象についての知識・理解・技能 資料活用の技能
	第4時			
第3次	第5時（本時）	○学習課題の解決と深める学習 ・南アメリカ州の農業や工業が発展してきたことによって広がる新たな問題とは何か考える。 ・追究したことを発表し、学習課題を解決する。	・発表グループには地図や資料を活用し、仮説を説明させ、さらに他のグループとの意見交換をさせることで仮説を修正させる。 ・学級全体で仮説について修正させ、学習課題を解決させる。	社会的な思考・判断・表現
第4次	第6時	○南アメリカ州についての考えをまとめる学習 ・南アメリカ州の地域的特色を白地図に工夫してまとめる。	・これまでの学習情報を基に、州の特色を簡単な言葉でまとめ、白地図に工夫して表現させる。	社会的な事象についての知識・理解

※ 網掛けは、「思考・判断・表現」に関わる「言語活動に関する指導上の留意点」とする。

4 本時の学習（第5時）

**【本時における言語活動】**  
 「要素Ⅰ 自己の思考」…前時で収集した情報を基に、自己の考えをもつ活動を行うため、本時では、重点的に取り扱わない。  
 「要素Ⅱ 伝え合い」…意見交換により多様なものの見方に触れ、社会的事象を多面的・多角的に捉える。  
 「要素Ⅲ 思考のまとめ」…収集した情報を整理し、自分の考えを再構成することで学習課題を解決する。

(1) ねらい

アマゾン川流域の開発に伴う森林破壊の実態を捉え、地域の開発と環境保全とのどちらを優先すべきなのかを地域の立場に立って考える中で、その両立が望ましいという持続可能な開発の重要性について、グループ活動を通じて多面的・多角的に考察する。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕評価規準【観点】(評価方法)
導 入	1 アマゾン川流域の開発の状況をつかむ。 ・アマゾン川流域の開発の写真(フィッシュボーン)を見たり、地図中の開発道路をペンでなぞったりして開発の規模をつかむ。	◇同じ場所の景観写真を部分的に示したり、拡大したりして同じ場所を遠近で捉えさせ、アマゾン川流域で大規模な開発とそれに伴う熱帯林破壊が進んでいることを読み取らせる。(ICT機器を活用)
開発と環境保全を両立させる手だてを考えよう		
展 開	2 持続可能な熱帯林開発の在り方を考える。 <b>要素Ⅱ 伝え合い</b> ・開発と環境保全を両立させる手だてを地域の立場に立ってグループで討論し、開発と環境保全の在り方について「①開発を優先する」「②環境保全を優先する」の2つの中で、どの選択が地域にとって望ましいかを考える。  3 考えた意見を発表する。 <b>要素Ⅱ 伝え合い</b> ・グループごとに考えた手だてを発表し、他のグループの考えと自分のグループの考えの相違点や共通点を見付ける。	<b>基盤：基本的事項の理解</b> ◇これまでの学習から開発に伴う大規模な森林破壊が地域の大きな課題となっていることを確認させる。 <b>基盤：学習情報の獲得</b> ◇手だてを考えさせる際に、考えの根拠を明確にして論理的に思考させる。  <b>基盤：学習情報の獲得</b> ◇全グループの考えた手だてを黒板に掲示し、情報を学級全体で共有し、各グループの考えを比較・関連付けて考えやすくする。 ◇発表の際には、地図や資料等を活用するなど、考えの根拠を明確にして説明させる。 〔評価〕⇒ 開発と環境保全の関連について多面的・多角的に考察し、それを両立させる手だてについて根拠をもって考えている。 <b>【社会的な思考・判断・表現】</b> (観察・ワークシート)
ま と め	4 持続可能な社会の実現に向けて行動していくことの大切さについて考える。 <b>要素Ⅲ 思考のまとめ</b> ・全ての発表を聞き、それを踏まえながら再度開発と環境保全を両立させる手だてを再び考える。	◇長期的な地域の発展を考えた場合、持続可能な開発の視点を踏まえることが重要であることを理解させる。 <b>基盤：学習情報の獲得</b> ◇グループで討論した内容を参考に手だてについて考えさせる。 〔評価〕⇒ 持続可能な開発の重要性について理解するとともに、様々な意見を基に自分の意見を深化させている。 <b>【社会的な思考・判断・表現】</b> (観察・ワークシート)

**【活用のポイント】**

- ・「自己の思考」では、根拠のある自分の考えをもたせるように、生徒の思考を促すような資料を選択するとともに、提示の仕方を工夫する。
- ・「伝え合い」では、多面的・多角的な見方や考え方ができるように、他者の考えに触れさせる効果的な交流の方法を提示する。また、黒板等を活用し、互いの考えを比較できるようにする。
- ・「思考のまとめ」では、伝え合いを通して得られた情報を整理し、「言語活動を支える基盤」として活用できるようにする。また、生徒の学びの過程を認め、生徒の考えを価値付ける。